

この夏 星を見る

【2025.7.4 公開】

2020年、コロナ禍で青春期を奪われた高校生たち。茨城の亜紗は、失われた夏を取り戻すため、〈スターキャッチコンテスト〉開催を決意する。
東京では孤独な中学生・真宙が、同級生の天音に巻き込まれその大会に関わることに。長崎・五島では美家の観光業に苦悩する円華が、新たな出会いを通じて空を見上げる。手作り望遠鏡で星を探す全国の学生たちが、オンライン上で画面越しに繋がり、夜空に交差した彼らの思いは、奇跡の光景をキャッチする――。



映画公式 HP



出演：板田ひより / 水沢林太郎 / 黒川想矢 / 中野有紗 / 早瀬恋 / 星乃あんな / 和田庵 / 萩原遼 / 秋谷郁彌 / 増井満々 / 安達木乃 / 蒼井旬 / 松井彩葉 / 中原果南 / 工藤通 / 小林涼子 / 上川周作 / 河村花 / 朝倉あき / 清水ミチコ / ビスケットティ佐竹 / 堀田茜 / 近藤芳正 / 岡部なかし
原作：辻村深月 『この夏星を見る』（角川文庫 / KADOKAWA 刊） 監督：山元環 脚本：森野マッシュ 音楽：haruka nakamura 主題歌：「灯星」 haruka nakamura + suis from ヨルシカ (Polydor Records) FLARE CREATORS 企画 第一弾作品

撮影リポート！

本作は、茨城・土浦の高校生を主人公にした物語で、原作小説のモデルにもなった「県立土浦第三高等学校」がメインロケ地となりました。さらに、「プラトーさとみ」や「朝日峠展望公園」など、県内の魅力的なスポットも登場します。クランクインの3か月前から制作スタッフが県内をロケハンし、候補地の中から厳選された4市町8か所で撮影が行われました。市町村フィルムコミッションやロケ地関係者が連携し、12日間にわたる撮影期間を支援しました。また、劇中に登場する「綿引先生」のモデルとなった土浦三高の岡村先生が天文監修を担当。エキストラには同校の生徒たちも参加し、地域の思いが詰まった作品となりました。茨城・東京・長崎を舞台に、「スターキャッチコンテスト」を通じて繋がる中高生たちの青春ストーリー。茨城の魅力とともに、全国の皆様にお届けいたします。



©2025「この夏星を見る」製作委員会



いばらきFC／ロケ地マップ スペシャルインタビュー

映画「この夏星を見る」
監督

主演

山元環さん × 桜田ひよりさん

映画「この夏星を見る」監督の山元環さんと、主人公の亜紗を演じる桜田ひよりさんに、

作品に込めた思いや茨城でのロケについてお話をお伺いしました。

Q. 監督に決まった時の思いは？

（山元）とても嬉しかったです。ただ、原作を読んだとき、実写化は難しい作品だと感じました。登場人物全員が瑞々しく描かれていて、物語には「敵」がいません。大人たちも自然とその瑞々しさに溶け込んでいき、最終的には皆が輪になり、星空を見上げることで繋がっていく展開になります。そこに、コロナ禍という時代の中で、人々が抱えている感情や葛藤をどう描くかが、最初に悩んだ点でした。ただ、自分にとって長編の商業映画デビューということもあり、これは挑戦だと受け止め全力で取り組みました。

Q. 印象深かったロケ地・シーンは？

（桜田）土浦第三高等学校でのロケが印象に残っています。作品のモデルになった学校で撮影することは滅多になく、生徒の皆さんが普段使用しているものが作品にも活かされています。撮影中はお昼もみんなで一緒に食べたり、まるで本当に学校生活を送っているような感覚でした。また、「朝日峠展望公園」で、実際に夜空を通過するISS（国際宇宙ステーション）を見て感動しました。
（山元）クライマックスで亜紗たちがISSのキャッチに挑むシーンは、「プラトーさとみ」で撮影しました。すごく形のいい丘になっていて、太陽が沈んでいくシルエットがとても綺麗に見えました。そんな特別な場所に行くことが、亜紗にとって、天文部の仲間である凛久への（別れの）プレゼントとしてふさわしいと思いロケ地に選びました。二人は手に取ることができない「星空」を通じて出会ったので、形のある「物」ではなく、「時間」・「場所」・「経験」といった形のないものこそが、亜紗からの贈り物になると考えました。

Q. 茨城への印象は？

（山元）本作が決まるまで、茨城とはあまり接点はありませんでしたが、ロケハンで訪れた際、田園風景がどこまでも広がり、とにかく空が広い場所だなと感じました。日本らしい風景が詰まったすごく素敵な場所だなと思いました。
（桜田）これまでも茨城での撮影経験はありましたが、ここまで長期間のロケは初めてでした。監督と同じく、綺麗な景色が心に残っています。

Q. 皆さんへメッセージ

（山元）本作は、見えないものを見ようとした子たちの物語です。望遠鏡は星など、肉眼では見えないものを可視化する装置です。コロナ禍で先の見えない中、登場人物たちは望遠鏡を使って自分の内面も覗き、自分自身を見つめ直し、未来のために歩みを進めていくような物語になっています。また、共感できる“推しキャラ”もきっと登場すると思うので、そのような点も含め、様々な楽しみ方をしていただけたら嬉しいです。
（桜田）茨城県での撮影されたので、茨城の皆さんに鑑賞していただきたいです。高校生だけでなく大人の目線からも描かれており、幅広い世代に届きたい作品です。たった一つのアイデアや行動で、輝く未来をつくることを証明できた作品です。登場人物が描き出す素敵な体験を、ぜひ感じてください。

茨城県 ロケ地紹介



茨城県立土浦第三高等学校 土浦市

※校内の見学はできません

小高い丘の上にあり、霞ヶ浦を一望できます。正門へ続く坂道には美しい桜並木があり、地域の人たちにも愛されています。

☆登場シーン

亜紗（主人公）たちが通う「砂浦三高」のモデルになった高校。天文部員たちの学校生活や屋上でのオンラインスターキャッチコンテストのモデルとなった学校。物語の中心となる場面の多くが撮影されました。



関東鉄道常総線車内 水海道駅～下妻駅

取手駅（取手市）から下館駅（筑西市）までを結ぶ、関東鉄道の鉄道路線。車窓からは田園風景や筑波山を望むことができます。ディンセルエンジンで走る気動車も魅力の一つです。

☆登場シーン

初めてのオンラインスターキャッチコンテストの後、様子がおかしかった凛久（天文部員の仲間）が電車内で亜紗たちに想いを伝えるシーンが撮影されました。



甘党の店 亜味 稲敷市阿見町阿見 607-1

土浦三高近くにあり、大判焼きやたこ焼きを提供しています。注文を受けてから焼き上げる大判焼きは絶品！

☆登場シーン

晴菜（亜紗の先輩）が大判焼きを買うシーンや亜紗たちがお店の前で談笑するシーンで撮影されました。



朝日峠展望公園 土浦市小野 1291-14

展望台からは、霞ヶ浦や関東平野を一望できます。快晴時には富士山や都心のビル群も。スカイスポーツが盛んで、パラグライダー体験も楽しめます。

☆登場シーン

物語序盤、亜紗たちがスターキャッチコンテストの開始合図を待つシーンが撮影されました。



プラトーさとみ 常陸太田市里川町 863-35

標高780メートルにある高原の宿泊施設。夜になると頭上には満天の星が広がり、何も遮るものがない夜空からは宇宙の壮大さを感じることができます。季節ごとに大型望遠鏡を使った天体観測会などのイベントも開催しています。

☆登場シーン

物語のクライマックス。亜紗たちがISS（国際宇宙ステーション）をキャッチするシーンが撮影されました。

- ・霞ヶ浦平和記念公園（冬の夜の公園） ・下妻駅前～下妻市下妻乙下妻駅（線路沿いの道）
- ・大形橋～下妻市鎌庭～（主人公が帰宅する道） でも撮影されました。

【茨城県内の公開劇場】 ※詳しくは劇場 HP をご覧ください

ユナイテッド・シネマ水戸 / TOHO シネマズ水戸内原 / シネマサンシャイン土浦 / TOHO シネマズひたちなか MOVIX つくば / イオンシネマ下妻 / イオンシネマ守谷 / US シネマパルナ稲敷